

タテスジハマキ

クロタテスジハマキ

両種ともに春にトドマツの新芽を糸で綴って食べるイモムシ（幼虫）。最大長約23mm。頭とそのすぐ後はつやのある黒または少し茶色っぽい黒。体は鮮やかな緑色。胸脚（きょうきゃく、トゲ状のあし）は黒色。

トドマツの若い人工林に多くみられる。



1. 幼虫。1962/6/12. 美唄市, トドマツ。

タテスジハマキ

【学名】 *Archips pulcher* 【分類】 チョウ目 (Lepidoptera) , ハマキガ科 (Tortricidae)

【分布】 北海道, 本州, 四国, 九州; 朝鮮半島, 中国, ウスリー。

【宿主】 モミ属 (トドマツなど) 。

クロタテスジハマキ

【学名】 *Archips abiephagus* 【分類】 チョウ目 (Lepidoptera) , ハマキガ科 (Tortricidae)

【分布】 北海道, 本州。

【宿主】 モミ属 (トドマツなど) , トウヒ。

【特徴】

タテスジハマキとクロタテスジハマキは幼虫では区別できない。よく似たモミコスジオビハマキやマツアトキハマキがトドマツ林で多発することがある。モミコスジオビハマキの幼虫は体が黄色から灰色、背中に黒点が並ぶ。マツアトキハマキの幼虫は頭が茶色から黒色、体が濁った緑色。

【生態】

年1回発生。幼虫は春に新葉を糸でつづりあわせて食べる。6月には十分成長し、葉を糸で束ねて中で蛹になる。蛹は6～7月に成虫になる。夏に孵化した幼虫は葉に潜る。数枚の葉を食べた後、それらを糸で束ねて中に潜って越冬する。

发育ステージ	～3月	4	5	6	7	8	9	10	11～
幼虫（休眠・越冬）	+++	+++	+..				..	+++	+++
幼虫（摂食・成長）			..■■■	■..		..■■■	■■■..		
蛹				..◇◇	◇..				
成虫・卵				..○	○○..				

【被害と防除】

トドマツ林の若い林で発生が多いといわれる。多発はごくまれである。防除は普通必要とされない。

【文献】

1984. 鈴木重孝, 駒井古実. 北海道における針葉樹を摂食する小蛾類. 北海道林業試験場報告, 22: 85-129. (分類, 形態, 生態)

北海道立林業試験場・緑化樹センター
タテスジハマキ, クロタテスジハマキ hamaki/tatesuji/
kaisetu.htm

「文章」原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/12/22.
yochu1.JPG

「写真1」上条一昭, 北海道立林業試験場, 1962.